



設定のインポート

[一括管理] メニューを使用して Cisco Unified Communications Manager に設定データをインポートする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [一括管理] > [インポート/エクスポート] > [インポート] の順に選択します。

[設定ツールのインポート (Config Tool Import Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[次へ] をクリックします。



(注) [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスに、アップロードした .tar ファイルがすべて表示されます。.tar ファイルのアップロードについては、[第 2 章「ファイルのアップロード」](#)を参照してください。

ステップ 3 [インポート設定 (Import Configuration)] セクションに、.tar ファイルのすべてのコンポーネントが表示されます。インポートするオプションに対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 項目が存在する場合にその項目が BPS によって更新されるようにするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。既存の設定の上書きは、オプションです。



(注) ファイルに変更を加えた場合は、更新中にファイル名とファイル形式を変更しないでください。

ステップ 5 [すべてを選択] をクリックすると、すべてのオプションを一度に選択でき、[すべてをクリア] をクリックするとすべての選択を解除できます。

ステップ 6 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択します。

ステップ 7 [送信] をクリックして、選択したデータをインポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

■ 関連項目

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理] メイン メニューの [ジョブスケジューラ] オプションを使用します。



(注) jon-run が失敗した場合、修正した同じ tar ファイルを実行すると上書きできます。

ログ ファイル

1 つのインポート トランザクションで複数のログ ファイルが作成されます。トランザクション全体に関して 1 つ、インポートするために選択した各項目に 1 つずつ、ログ ファイルが作成されます。ログ ファイル名の先頭に項目名が追加されるため、ログの識別は容易です。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

関連項目

- [設定のエクスポート \(P.59-2\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(P.59-4\)](#)
- [ファイルの検索 \(P.2-1\)](#)
- [ファイルのダウンロード \(P.2-3\)](#)
- [ファイルのアップロード \(P.2-4\)](#)
- [ファイルの削除 \(P.2-5\)](#)